

クジャクチョウとの初めての出会いは中学1年のときの理科室だ。チョウの世界の楽しさを知って、年に数回はみんなで昆虫採集に出かけるという科学班というクラブに入部し、上級生から「先生秘蔵のチョウ標本があるぞ」と見せてもらったのが、黒一色の裏面だけがみえる初めて目にするチョウが納まった三角紙。先輩はコヒオドシだという。横山光夫著の日本原色蝶類図鑑を眺め回していたはずなのにチョウの裏面までは記憶になく、早く翅表をみてみたい。先生に展翅OKとの了承を得て、胸を高鳴らせながら標本を傷つけないようそっとピンセットで覗いたそのチョウがクジャクチョウだと分かったときの感動は今でもありありとよみがえる。

初めて生きたクジャクチョウを見ることができたのは、1962年、下諏訪の蝶友津田進さんに招待していただき、高知県外への初の一人旅をしたときだ。霧が峰七島八島湿原の周回道路に案内してもらった際に、路面のあちこちに夢中で吸水する黒いチョウがいて、その翅先端の特徴からクジャクチョウだとわかり、他のチョウを驚かして逃がさないように手前の1頭から順番に静かにネットに収め、多くを生かしたまま三角紙に包み込む。高知に持ち帰り、家族に生きた美しい姿を見せてやろうという意識が働いていたからだ。



Aug.14,1968 美ヶ原山本小屋 クジャクチョウ

次いで1968年、妻と計画した信州旅行中、美ヶ原山本小屋周辺の花畑に集う多数のクジャクチョウを堪能し、やはりクジャクチョウは花を訪れる姿が一番似合うことを実感。当時はチョウを撮影する技量もなく、ましてやビデオカメラも普及していないので採集標本だけが思い出の記録となっている。

1976年の初めての北海道家族旅行時、阿寒湖湖畔にあった前田邸庭園でおびたしい数のコヒオドシに混じって飛び遊ぶクジャクチョウを楽しめたが、1999年、23年ぶりに訪れた阿寒湖湖畔の環境は様変わり。前田邸は自治体に移管されて往時のタンポポが咲く庭園は深い森に変身して、チョウが乱舞していたあの夢のような光景をみることはもう二度とできない。

クジャクチョウが乱れ飛ぶ状況を家族4人で楽しめたのが1984年信州蓼科高原の麦草峠だ。ちょうど第二化の発生ピークに出会えたようで麦草峠周辺の自動車道路沿いに咲くヒヨドリバナやフジバカマの花という花すべてにクジャクチョウやシータテハが吸蜜している状況で、カメラ撮影とようやく個人でもカラー撮影を楽しめるようになったビデオ記録も残せたが、その後の技術の進歩はすさまじく、現在のフルハイビジョン映像に慣れるとその画質差は歴然で、すべてを撮りなおしたい心境となっている。



Aug.30,1984 長野麦草峠  
leg.Yoshiko Shimazaki

その後、2004年8月の開田高原で久しぶりに美しいクジャクチョウ



Aug.28,2005 御岳山

を目にでき、翌2005年8月には御岳山でようやく納得のゆく構図の写真撮影記録。2008年には32年ぶりの入笠山でフルハイビジョン映像撮影の機会を得たが、足場の悪いところで満足のゆく記録ではなく次のチャンスをねらっている。クジャクチョウはいつまでも飽きの



Aug.19,2008 長野入笠山

こない大好きなチョウで、このチョウとの出会いを求めて何度でも信州へと足が向う。